

## 平成24年度 第2回CCC美術・デザイングループ運営委員会 議事概要

- I. 日 時：平成24年7月12日（木）午前10：00～12：00
- II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：久原委員、西垣委員、井澤委員、小川委員(ネット)、宮田委員(ネット)  
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

### ■ 検討事項

教育改善モデルを実施するために必要な教育力について

#### 【2】教育改善モデル実現に求められる教育力

美術・デザイン分野において学士力実現に求められる教育力とはなにかについて、すでにまとめた教育改善モデル2案を実現するために必要となる教員の教育力について検討し、文章の作成を行った。

まず、事務局より、前回会議においてまとめられた、【1】芸術系教員に求められる学識の「学識」を「専門性」に変更した旨について説明があった。

「学識」は、研究能力、教育能力が中心となることや教育姿勢を捉えている内容であることから、「学識」の文言は使用せず「専門性」に改めた。出席者同意。

### ■ 議事要旨

当委員会で作成した教育改善モデルは「美術・デザインにおける教育改善モデル（その1）」=資料②.1と「美術・デザインにおける教育改善モデル（その2）」=資料②.2の2提案がある。それぞれにおいて、特に必要とされる教育力とは何か？ 項目ごと、順に検討整理することで、『【2】教育改善モデル実現に求められる教育力』について具体的な提案を抽出することとし、他の分野の例を参考にしつつ議論を行った。

\*本題に入る前に、美術・デザインにおける教育改善モデル（その1）において、すでに前回作成済み文面の一部について再検討。

2. 授業デザイン▶2.1 授業のねらい▶「この授業モデルでは、歴史、社会、自然、人間などの観点から作品のコンセプトについて、学生や社会からの意見を取り入れ、創作できることを目指す。」

→「この授業モデルでは、歴史、社会、自然、人間などの観点から作品のコンセプトについて、学生や社会などの多様な意見を取り入れ、創作できることを目指す。」と下線部変更。

#### 『【2】教育改善モデル実現に求められる教育力』

##### 1) 他分野（機械工学）の例を参考

機械工学で挙げられている「当該授業のカリキュラム上の位置づけを十分に理解し、教育方針

に合致した授業を実施できること」との提案。各分野共通の項目であるが、当分野においても欠くべからざる重要項目であるとの意見から①の項目として「授業のカリキュラム上の位置づけを十分に理解し、教育方針に沿った授業を実施できること」と多少語句修正して採用。

そして、2つの異なる教育改善モデルを検討した結果、教育改善モデル（その1）から2項目、教育改善モデル（その2）から3項目を抽出した。以下、詳細。

2) ②. 1 美術・デザインにおける教育改善モデル（その1） から抽出

当分野における学士力の到達目標1として「社会、歴史、自然、人間などの観点から造形表現を理解できる」と掲げ、教育改善モデル（その1）ではそれをもとに授業を組み立てられていること、さらに、到達度として学生が身につける能力全てにおいて学生の主体的な学習環境が必要との観点から②の項目として「歴史、社会、自然、人間などの観点から、学生が主体的に対話の場を形成し、広い視野を獲得するように指導できること」を提案。

到達度として学生が身につける能力に掲げられた『多面的な視点を取り入れて、より広い視野から表現することにより、多くの人にとって意味のある創作をすることができる』を実現するためにもとめられるものとして「多面的な視点で創作や鑑賞ができるよう、他分野の教員や専門家などの協力を結びつけるコーディネートができること」を③の項目に。

3) ②. 2 美術・デザインにおける教育改善モデル（その2） から抽出

この教育改善モデル（その2）は学士力の到達目標3『美術・デザイン分野における専門の知識と技術を統合し、社会貢献に寄与できる』を大きな柱として提案された。専門の知識と技術を統合するためには、時代とともに変容するこの分野に関する広く深い知識と理解が必要であり、それを実現するための教育力④の項目として「4年間を通じて造形表現や専門理論と技術に関する理解を深めるために、学習支援サイトなどを活用したeラーニングを実施できること」←2.3 ①から。

当授業プランは外部評価を含めた様々な評価を受けることで、社会的な通用生を確認することが到達度として学生が身につける能力として提案する、社会での機能性、利便性、生活の質向上などの実現に取り組むことができる能力を獲得できる。という議論から「ICTを活用して作品を公表し、学内外の評価を通じて到達度を確認できるようにすること」←2.2 後段から。

さらに、社会での実現性を目標とするために、授業のしかけとしての実体験が欠くべからざるどころから、「社会との関わりの中で制作活動を体験させ、社会や市民生活に貢献する志を育てることができる」←2.4④から。

以上、6項目を作成した。

全体の文章と項目の順番を再検討、修正し、芸術系教員の教育力【1】芸術系教員に期待される専門性に引き続いて【2】教育改善モデル実現に求められる教育力を以下のようにまとめた。

## 【2】教育改善モデル実現に求められる教育力

- ① 授業のカリキュラム上の位置づけを十分に理解し、教育方針に合致した授業を実施できること。
- ② 歴史、社会、自然、人間などの観点から、学生が主体的に対話の場を形成し、広い視野を獲得するように指導できること。
- ③ 多面的な視点で創作や鑑賞を学修させるため、他分野の教員や専門家などの協力を結び付けられること。
- ④ 4年間を通じて造形表現や専門理論と技術に関する理解を深めるために、学習支援サイトなどを活用したe-ラーニングを実施できること。
- ⑤ 社会との関わりの中で創作活動を体験させ、社会や市民生活に貢献する志を育てられること。
- ⑥ ICTなどを活用して作品を公表し、学内外の評価を通じて到達度を確認し、改善できること。

### ■次回会議課題を事務局から提示。

芸術系教員の教育力【3】教育力を実現するためのFD活動と大学としての課題

(1) FD活動 (2) 大学としての課題

次回会議予定：8月27日(月) 10:00～

以上